

復 命 書

令和 7年 2月 25日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	吉原 光
研修会名等	福岡県みやま市「道の駅みやま」
期 間	令和 7年 2月 17日 (月)
内 容	<p>○道の駅みやまが発足した経緯と現状について</p> <p>道の駅が出来た経緯は、H21年3月九州自動車道にみやま柳川ICが出来たことが契機となった。H21年6月市議会で道の駅が示され、H22年3月みやま市、JA南筑後、みやま市商工会、高田漁協の4団体で管理団体が作られた。H22年12月市議会で承認され、H23年3月に開駅。管理団体4者が株主となり、資本金3千万円、指定管理料は当初から年間150万円となっている。現在の従業員数はパートを含めて26人、出荷者数は526人、出荷者は野菜・果物等それぞれの出荷組合にすべて入る形を取り、それぞれの部会で年1回の総会、月1回の役員会が行われる。毎月1名～5名の出荷申込者があり、それぞれの役員会に因って出荷者となる。これまでの来場者数は、14年間で約58万8千人、平日は1千200～300人、休日は2千人、年間の売上は2014年から10億超えとなっている。みやま市に納金まで出来ている。</p>
所 感	<p>福岡から1時間といった立地や交通の利便性の良さが、売上や来場者数が伸びている要因に挙げられるが、それだけではないと感じた。主な出品物は、農産物の米、麦、特産品である山川みかん、セロリ、なす、海苔、高菜漬けなど。海産物で目を引いたものは、有明海名産の舌平目の仲間のクチゾコや磯巾着の仲間のワケといったもの、韓国産の焼き穴子が大量に置いてあったが、それは需要量に国産品が追いつかなくなったためとのことであった。農産品だけかと思っていたが違った。来場者が多い理由として、商品管理体制にあると考える。絶えず商品を切らさない、搬入や商品量の調整や出品者への連絡体制、また値段設定にしても生産者の自由といっても、スタッフがチェックすることが出来ていることが大事なことと思った。もう一つ興味深い取り組みとして、国の補助事業を活用してフードコートを増設して飲食店の自立支援チャレンジ事業を展開していた。開設時3店であったものが現在9店となって、実績として1店が自立したとのことであった。私も以前から面白いと思っていたが、わが町も活性化のために、そのような取り組みが必要ではないかと思う。</p>
添付資料	なし

復 命 書

令和 7年 2月 25日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	吉原 光
研修会名等	佐賀県太良町「町立太良病院」
期 間	令和 7年 2月 1 8日 (火)
内 容	○病院改革における取り組みと現状について 太良町の人口は、1月現在7,874人。太良町内の病院は3つあったが、一つは2年前に閉院し、もう一つ個人病院はあるものの院長は75歳と高齢であり、実質町内唯一の病院となっている。病院の診療科は、内科・循環器科・外科・整形外科・小児科（週3回非常勤）・耳鼻咽喉科（佐賀大学より木曜午後）・リハビリテーション科となっている。病院の他に、介護保険の入口として必要な訪問介護ステーション・居宅介護支援事業所・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションとなっている。常勤医師は、整形外科の院長以下、内科・循環器内科医、整形外科医、前院長の外科医（週4）、小児科医（週3）の5名、非常勤医師として、内科医3名、整形外科医2名、耳鼻咽喉科医1名となっている。整形外科の入院が77%、内科20%、外科3%となっており、整形外科の手術件数は年間251件でほぼ毎日行われている。現在、太良町の高齢化率が4割を超えており、地域のニーズにあった医療の提供と言える。
所 感	町内太良病院の特徴として、病院改革委員会において役場職員の派遣を廃止し、平成22年病院事務に精通した専門の職員を採用していることである。この事務長の病院経営の考え、削れるものは何か、如何に点数を加算していくかという方針のもと、医師を始め医療従事者にもその考えを浸透させていることを感じた。事務長曰く、地域医療を守るために公的病院は必要であり、病院の役割は医療だけではなく、住民の生活を支えることとなっている。そのために、病院の他に介護部門の併設は必要不可欠なもので、また町の抱える問題や課題を共有し、理想のまちづくりに取り組むことを目的として町内全施設が参加した、太良町地域包括ケアシステム研究会（TCネットワーク）を結成し、地域支援事業を展開していることが素晴らしいと思った。町立太良病院は、隣接の市町の病院と連携が出来ていて良い関係がいた取れている。町が合併し、肝付町立病院と名前はなったが、それは内之浦の病院といった考え方ではなく、地域医療という考えが行政にも求められていると感じた。
添付資料	なし

復 命 書

令和 7年 2月 25日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	吉原 光
研修会名等	熊本県八代市「有限会社 ひらやま」
期 間	令和 7年 2月 19日 (水)
内 容	<p>○陸上養殖事業の取り組みと地域活性化へ向けた可能性について</p> <p>日本近海で穫れるサーモンは、北極海での翼足類の減少により生息数が減少し、長引くサーモン不漁の要因となっている。日本におけるサケ類の漁獲量は、1996年のピーク時の28.7万トンに比べて、2019年は5.6トンと80%も減少している。よって、現在日本で消費されるサーモンは、チリやノルウェーからほとんどが輸入されている。そこで、海洋環境から影響を受けず環境保全に貢献する持続可能な漁業として、また今後予想される食料不足問題の解決策として、陸上養殖が注目されている。</p> <p>有限会社ひらやまでは、8年前から陸上養殖に取り組み3年前にその技術を確立した。現在、八代市の耕作放棄地や廃校を利用して陸上養殖のいけすの建設が進んでいる。そこには、大手企業、JRや電力会社、建設会社等の事業参入者のいけすであった。</p>
所 感	<p>養殖のブリ・カンパチは成魚まで3年かかるが、サーモンは1年で出荷できる。陸上養殖に必要なものは、養殖いけすの設置費用1槽500万円、井戸水が重要であり、最低毎分20リットル以上あること、できれば50リットルで水温が18度程あること。1槽に500匹の養殖が可能で、参入者はひらやまから稚魚1匹350円を購入する。出荷までの生育に関する相談もできる。トラウトサーモンであればその内の9割は出荷できる。現在の出荷先は東京方面で、引き合いも多く足りない状況にあると社長は話した。また、八代市のふるさと納税返礼品にもなっているようである。鹿児島県では現在、枕崎市に40槽のいけす建設が進んでいるようである。本町で行うとなれば、輸送コスト等に不利を感じるが、期待通り大変興味深い内容であった。</p>
添付資料	なし

復 命 書

令和7年2月26日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	前田 美春
研修会名等	行政視察研修会 (産業、福祉委員会)
期 間	令和7年2月17日(月)~令和7年 月 日()
内 容	<p>福岡県 みやま市 「道の駅」みやま</p> <p>◎ 道の駅が果たした経緯と現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会社組織は。 ・ 野菜等を出品する生産者は、地域内から。 ・ 経営状況など。
所 感	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産者 5、6名が出荷組合に加入し、新鮮、安心、安全をモットーに、年間の売上げは、10億円を越えていることは、感心したところです。売上げが上がり、登録有数も増えていることは、しっかりと運営方針で取り組んだと感じた。会社の構成には、市A市商工会、漁業の4団体で、しっかりとバックアップを感じた。指定管理料は、平成33年当初から150万と定められており
添付資料	<p>今度も金額は変わらないが、売上げの一部を市の方に寄付を行って、事業にも驚いた。何事も初めが大層で、しっかりと協議が必要である。</p>

復 命 書

令和7年2月26日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	前田 美春
研修会名等	行政視察研修 (産業福祉類会)
期 間	令和7年2月8日(X)~令和7年 月 日()
内 容	<p>佐賀県太玉町「町立太玉病院」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院改革における取り組みと現状について <p>平成18年に開院し、当初は赤字が続いて、平成21年度に改革プランを策定し累積赤字を解消しております。現在は黒字経営を維持 ・ 訪問看護ステーション ・ 居宅介護支援事業所 ・ 通所リハビリテーション ・ 訪問リハビリテーションがあり、看者は病院に集中し、残</p>
所 感	<p>我が町の町立病院の体制が、おたく(理事、職員)も町の職員ではない。(改革類会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給与体系が違う、整形外科の入院770、手術件数が年間251件と少なくて、ほぼ毎日、手術を行っているし、整形外科が主体の病院で別と感 ・ 収入増の取組について(診療報酬) 案を耳で聞いている、必要性を感じ ・ 他は民間のクリニックと連携体制が確立しており、紹介逆紹介が少なくある
添付資料	我が病院でも、連携体制の必要性を感じた。

復命書

令和7年2月6日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏名	前日美春
研修会名等	行政視察研修 (産業、福祉委員会)
期間	令和7年2月9日(水)~令和7年2月10日(木)
内容	<p>熊本県「有限会社 ひらやま」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上養殖事業の取り組みと地域活性化への可能性について ・陸上養殖のしくみについて ・廃校を利用した陸上養殖について <p>日本におけるサケ類の漁獲量は ピーク時：28.7万t (1996年) > 80%減少している。 現在：5.6万t (2019年) 減少中である。</p>
所感	<p>・陸上養殖の失敗要因となる技術的ノウハウから販売や養殖までを兼営する「有限会社 ひらやま」の視察研修が主眼。驚くべきことに、感心するほど海洋環境から影響を受けない環境保全に貢献する持続可能な漁業。陸上養殖の現場を見学、シミュレーション設計のよう養殖用の水槽も、試行錯誤しながら現在にあると思う。陸上養殖カーボンのJAS認証を受けられ、売値も</p>
添付資料	<p>大手スーパー(195店舗)、ホテル、飲食店にも提供が確認されている。大手企業に納入している。町で算入すれば、指導して欲しいと思う。8年2月6日、この日の事業</p>

復命書

令和7年2月26日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏名	中原 稔
研修会名	産業・福祉委員会行政視察研修
期間	令和7年2月17日(月)～令和7年2月19日(木)
内容	1. 道の駅みやま 目的 道の駅が発足した経緯と現状について 場所 みやま市瀬高町大江 経緯 平成22年3月指定管理者指定 指定管理料1,500千円 出荷組合員数526人 総会1回/年 部会・役員会1回/月 現状 店舗の通路が狭い 人員不足 夏期の農産物の出店不足
所感	指定管理料は当初から変わらず1,500千円である。 指定管理料算定は概ね浄化槽等の法定点検に必要な金額としている。 本町にも指定管理施設がある。管理料や運営方法など検討の必要性を感じた。
添付書類	

復命書

令和7年2月26日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏名	中原 稔
研修会名	産業・福祉委員会行政視察研修
期間	令和7年2月17日(月)～令和7年2月19日(木)
内容	<p>2. 町立太良病院</p> <p>目的 病院改革における取り組みと現状について</p> <p>場所 佐賀県藤津郡太良町</p> <p>取組 町立病院経営強化プランを策定 (令和6年度～令和9年度)</p> <p>経営強化プラン基本条例</p> <ol style="list-style-type: none">役割・機能の最適化と連携の強化医師・看護師等の確保と働き方改革経営形態の見直し新興感染症に備えた平時からの取り組み施設・設備の最適化経営の効率化 <p>現状 入院患者の約66%が後期高齢者</p> <p>整形外科の入院 77% 内科 20% 外科 3%</p> <p>整形外科の手術件数 251件/年</p>
所感	事務局長の積極的な病院改革の姿が強く感じ取れた。 改革の基本はリーダー育成・目標の共有が必要と思った。
添付書類	

復命書

令和7年2月26日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏名	中原 稔
研修会名	産業・福祉委員会行政視察研修
期間	令和7年2月17日(月)～令和7年2月19日(木)
内容	3. 有限会社ひらやま 目的 陸上養殖事業の取り組みと地域活性に向けた可能性について 場所 熊本県八代市鏡町 取組 ひらやま式陸上養殖のシステムは特許取得済の独自の排水と情報通信技術で徹底した水質管理により、サーモンの生育に適した環境を保ち続ける事が可能になった施設である。
所感	漁業は、気候の変動や海洋環境の変化により漁獲量に影響を及ぼし経済的に不安定な要素を含んでいる。陸上養殖はこの様な自然環境に捉われず対応可能な技術である。養殖に不可欠である地下水・土地があれば実施は可能である。将来、本町にも導入する必要性を感じた。 また、廃校の校舎を活用した養殖も可能であり地域活性化の可能性を多いに感じた。
添付書類	

復 命 書

令和7年2月25日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	木 村 實 馬
研修会名等	産業・福祉委員会 行政視察研修
期 間	令和7年2月17日(月)～19日(水)
内 容	2月17日は、福岡県みやま市の道の駅みやまでの研修。2月18日は佐賀県太良町の町立太良病院での研修。2月19日は熊本県八代市の有限会社・ひらやまの研修。
所 感	道の駅みやまでの研修では、高速道路の、みやま・柳川インターチェンジの開設に伴い設置されており、地の利もよく周辺には大手のスーパーなど進出していたが新鮮野菜などの朝どれ野菜を売りにされており、出店者も526名と多く年間売上10億のうち、手数料の17%が運営費で1億7千万円と活況ある施設であった。18日の町立太良病院は、早くから病院改革に取り組みされており、病院経営の核となる事務長を民間の専門家を招聘されており、行政からの出向もなく給与体系も年功序列ではなく能率給にされるなど職員とも合意の上で取り組まれており、公立病院とは思われないような経営手法が行われていた。一概に本町と比較はできないが、ご教示いただくことの多い研修であった。最終日の有限会社・平山の研修は、社長の平山氏が近年の海洋酸性化が引き起こす深刻な問題を早くから察知され、今日色んな高級魚の陸上養殖技術が確立されつつある中、地下水を使った、ひらやま式閉鎖循環式陸上養殖システムは、特許取得済みの独自の排水技術と情報通信技術による徹底した水質管理により、サーモンの養殖が行われており、イトーヨーカドウの全店舗に納品されており、JR四国旅客鉄道など多くの企業が、海洋環境から影響を受けない。環境保全に貢献する持続可能な漁業に取り組んでおられる実態を目視した。廃校の活用であったり、耕作放棄地を一時転用で活用されており、本町においても真剣に検討するべきと感じる研修であったことを報告します。
添付資料	

復命書

令和7年3月10日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏名	谷山 二郎
研修会名等	産菜福祉委員会 行政視察研修
期間	令和7年2月17日(月)～令和7年2月19日(水)
内容	研修地 福岡県みやこ市、佐賀県大良町、 熊本県八代市 内容 所感は別紙のとおり
所感	
添付資料	

復命書（別紙）

道の駅 みやま

私にとって二回目の視察となる。前回等と比較しながら書き込むこととしたい。

出荷組合（526人） 前回と比べ、品目が増えバラエティーに富んでいるように見えることから組合員数も増加傾向であることが推測できる。説明される担当者の方からもそのような傾向をお聞きした。

年間売上 訳 10 億円

活況を示す驚くべき数字である。全国的に道の駅の不振が聞こえる今日、なにがその要因なのか以下で述べる。先の組合員増の一因に売れるから増える。利益が上がるから出荷する等の一因が容易に想定されるところである。

地の利

九州自動車道みやま柳川 IC からおおよそ 5 分と近くみやま市郊外に位置する。有明沿岸道路徳益 IC とのバイパス道路とも近く交通アクセスは抜群といえる。近くには大手自動車販売店やスーパーマーケットもありみやま市消防局も隣接する。

施設全体

とにかく駐車場が広い。前会より駐車スペースが広がっているように見えた。これは食事棟が 7 年前に増設されたのも一因かもしれないが、利用者には便利なことであると思う。常時数台の観光バスが止まっており、観光客の食事、お土産の買い物、トイレ休憩のためと思われる。我々の視察の間、入れ代わり立ち代わりといった様であった。

道の駅館内

スペース的には依然と一緒であるが、並べられた品目が各段に増えていることがよく分かった。レジスターも倍くらい（5 台）になっていてセルフ式に進化もしていた。品物を大まかに分けると生花類、果物類、土産物（お菓子・木工品・地域特産の染め物を使った布製品）類、魚などの海産物各種、弁当各種などであるが、スーパーマーケットの品ぞろえとは一線を画したものであり地元産をメインにしたものと感じた。しかし野菜や果物は、スーパーマーケットのほうが格段にきれいでおいしそうに見えると思う。なぜこれが売れるのか不思議であったが現実的に完売していることから、他にも要因はあると思うが、地元産の安心感も一因ではないかと考えるところである。

客数

平日 1 2 0 0 ～ 1 3 0 0 人、土日 2 0 0 0 人どちらかといえば地元

の方が多いと説明を受けた。道の駅といえば、観光客を呼ぶ込むための施設と考えがちであり我々が目にする近郊の施設もそうであると思われるが、ここは地元に着した施設であることは歴然である。施設近郊の方が足しげく通う地元で愛される店ではないかと強く思った。

肝付町でも過去に道の駅及び物産館建設の話があり、町長も構想を述べたことがある。途中で断念することとなったが、今回のみやま市道の駅の視察内容を考慮したとき、施設を建設するだけでは、将来性を考えると全国的に不振を極める道の駅と同じ道をたどる可能性が大きいと感じた。そこには出荷者の方々、地域の方々、経営陣の方々との時間をかけ、詰めた事前協議が必要であり、お互いを信頼した上の理解と協力が不可欠であると思う。2回目の視察で、完成直近の姿と10年程度経過し新たに伸び行く姿を見たとき、モデルとしての価値を認識したところである。

町立太良病院

私の調査における主眼点

肝付町の町立病院においては法定内繰り入れだけでは経営が安定せず、数年前より法定外繰り入れを行っているところである。違法な処置ではないとしても本来なら法定内で運営することが、妥当ではないかと考える。取り巻く状況においても差異が生じることは十分に承知をしているが、他の町の町立病院を調査することにより、改善策を見いだせたら一番良いことではないかと思ひ調査の重き所に据えたところである。

事務局長より説明等を受けた。事前に町立病院の現地視察も行ったところである。

太良町は人口7874人、肝付町よりも小規模であるが、主な対象地区を内之浦地区とした本町と比較したら数倍の規模であろう。本町同様に少子高齢化が進んでいて、20年後には4000人を下回ることが予想されている。これもまた同様である。

研修地では町立病院が一番大きな医療施設であり、町民の命と健康を守る拠点となっている。近隣には武雄市や嬉野市など比較的大きな自治体もあるが、町民の受診は町立病院が多いようである。

主眼とする繰入金については、法定内で運営されている。これから15年間はこの財政で賄うといわれたところから、この人口ではこのような運営が可能なのだと察したところである。常勤医師が5名、非常勤医師が4名程度いらっしや、診療科が多いにもかかわらず、対応されていることは敬意を表したい。しかし説明では利益が出にくい診療科もあるといわれたが、唯一の総合的な病院としては仕方のないところではないだろうか。

肝付町と比較した場合、本町には高山地区に6病院があり内之浦地区にも2病院がある。町立病院の置かれた状況は太良町の病院とは大きく異なる。同様なやり方で取り組んでも諸条件が異なるため直ちに改善するとは考えられないことは当然であろうが、良い点ややり方は模倣することに値すると思う。医療経営に疎い我々が専門的なことを唱えることはできないが、ただ言えることは、病院経営を改善するには経費の削減や無駄を省くことができれば先に光明を見出すこともできようが、患者の万全のケアを考慮すれば、そこには限度もあろう。残るは患者受け入れのパイを大きくするしかない。人口2000人程度の内之浦地区に2つの診療施設では限界があると思う。高山地区や町外にそのパイを広げることが必要である。

あと一つあるとしたら、専門分野を他の病院と連携を取り、お互いに共有するとしたらより良い経営ができるのではないだろうか。町立病院には専門の医者がおられるとお聞きしている。専門分野を生かすことで特色を出し、そうでないものは、他の病院と共有することも一策であると思う

(有)ひらやま サーモン陸上養殖の視察

サーモンは国内でも消費量が多くどこでも流通しており、その人気に対しても比較的安価で入手できる魚である。しかし、大部分は輸入に頼っているのが現状である。国内産は主に北海道であり5万トン前後であるのに対し輸入品量は26万トンである。しかも国内産の漁獲量は年々減少傾向である。

今回の(有)ひらやまの陸上養殖は広大な用地を必要とせず、室内外で取り組みが可能な施設や養殖方法が開発されていて大いに参考となる事案であると感じた。

現地に到着後、諸々の説明をしていただいたのち現場へと赴いたところである。最初の養殖現場は廃校となった小学校跡地であった。各教室に配置された養殖用水槽には成長段階別に分けられ、このような小規模な水槽で投資金額が短期間で回収可能なのかと疑問があったが、説明の中で魚の成長速度の速さや管理しやすさ、歩留まりの良さを聞いた時、商業として十分成り立つと確信するに至った次第である。屋外の他の施設に移動し、視察を行ったが、現在も新たに複数の水槽を建設中であり、説明の中で比較的名の知れた大手企業がこの事業に参入もしくは参入予定であることをお聞きし、将来性がある事業であると感じたところである。

この施設の利点は一曹当たりの設置費用は500万円程度であり、比較的新規参入しやすいのではと考える。もちろん、その後の育成等に関してのノウハウについては時間をかけ習得することが求められ簡単にはゆかないと思うが、その将来性を考慮した場、十分に地場産業の育成という面では大きな可能性があるものと確信したところである。

これを肝付町に導入となると、漁協とか養鰻関係、または企業意識を持った有志になろうと考えるが、町が窓口となり、その可能性を探るとしたら有望ではないかと思うところである。私、個人的にも大変魅力的な事業であると思ったところである。

消費については、これから益々、増大してゆくと説明を受けたが、最近の漁業資源の減少等を考慮するとその通りではと考えるところである。

